

コロナ禍の教員1年目

霜崎 大知 SHIMOZAKI Daichi

はじめに、今回の投稿は、小学校教員としての個人の意見や考えであることをご理解いただけたらと思います。

昨年4月に新採用として長年の夢であった小学校教員としての勤務を開始しましたが、この1年で起こったことは、予想だにできなかったことだらけでした。様々な点から、今の思いを書かせてもらいたいと思います。

【1】クラスの1年

教員1年目ですが学級担任を受け持っています。小学校教員のため、ほぼ全ての教科を自分で教えています。後述する研修の関係で音楽の授業は担当しておらず、音楽好きな私としては少し寂しいところです。(音楽のスペシャリストの先生に担当していただいているので、子どもたちにとっては幸せなことと思います。)

以前、『おんがく広場』の第10号「歌のない世界と私」(4月19日)、第36号「学校活動の再開にあたり考えること」(5月13日)にも書いたのですが、子どもたちは音楽がとっても好きだということ、学校生活のあらゆる場面で音楽が関係しているということを強く感じた1年でした。状況や指示に応じて、マスクを着用すること、同じ方向を向くこと、場合によっては聴く時間にするなど、臨機応変に歌の時間を過ごしました。

授業場面では、対面時間を最小限にするなど求められる対策を行いながら、学校でしかできないことを大切にしたいと考えました。マーカーボードを使用したり、ICT機器を活用したりして、友だちの意見を聞いたり伝えたりする活動を確保しました。また、グラウンドや学校周辺の地域材に触れて学ぶことも大切にしました。特に、外で広々と活動出来る時間は、閉鎖的な雰囲気や漂う現代において、視野が一気に開けるような、そんな開放感を感じる事が出来ました。

何が正解なのか、わからない部分もありますが、子どもたちが見せる「笑顔」をどのように守ることが出来るのか、これをよく考えた1年でした。



【2】個人の1年

私は新採用のため、学級担任をしながら様々な研修も受けています。(これはどの自治体でも同様かと思いますが)しかし、コロナウイルスの影響で対面での研修はほぼ中止となり、パソコンを使用して学外に出ない方法で研修を受けることになりました。

学級のことに時間をかけることが出来たのは非常に良かったのですが、研修を受けている者同士の顔を見ることが無かったため、同じ地域にどのような「同期」がいるのか全くわからない状態となっていました。

校内で諸先輩方からいろいろなアドバイスはいただけますが、同期だからこそ共有出来る悩みなどを相談出来る相手があまりいないことは寂しく感じています。

また、多くの学校で行事の縮小や中止、変更を余儀なくされており、私のいる学校も例外ではありません。「経験出来なかった」行事もあるため、次年度に初めて知る動きも多くあることに不安を感じているのも事実です。

様々な制約のあった1年目ではありましたが、学級担任として日々の授業を行ったり、数少ない行事を経験したりするなど、教員としてのやりがいを多く得ることができました。何よりも子どもたちが見せる笑顔、喜びを共有出来ることは、この仕事をやっていて一番の幸せだと強く感じます。【1】とも繋がりますが、これを永続的に守るためにも、今出来ることを今しっかりとやるのが大切なのだと思います。

【3】来たる1年

第一に、いわゆる「例年」の形に少しでも早く戻ってほしいと思っています。多くの制約の中で過ごすことから開放され、伸び伸びと、思いのままに過ごせる環境に戻ってほしいのが一番の願いです。

ですが、実際はどうなるのかわからないのが現状です。そこで、大きく次の二点を意識して授業を進めていきたいと考えています。

1. ICT機器の活用

この1年、様々な教科でICT機器を使用し学習を進めてみました。教員としての経験も浅いため失敗も多く、試しては改善、また試しては改善を繰り返してこの1年授業を行ってきており、その中で私の授業スタイルの一つに「ICT機器の使用」が生まれました。

※ Information and Communications Technologyの略。情報通信技術。ITに加えてコミュニケーション性が具体

的に表現されている点に特徴がある。日本では、あまり普及していないが、世界的にはITよりもICTが一般的。

また、GIGAスクール構想※によって、全国の学校で1人1台のタブレットが整備される予定にもなっています。ICT機器を活用することで、自分のペースに合わせて学習をすすめること、対面でなくとも友だちの意見を共有することなどをしていき、1人1人の学習ペースに寄り添った授業を行っていきたくです。どのような活用方法、可能性があるのか、私自身が機器や様々なアプリケーションの情報収集や理解をしていきたいと考えています。

※ GIGAスクール構想とは、児童生徒1人1台の学習者用端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する構想のこと。子どもたちの未来を見据え、創造性を育む教育ICT環境の実現に向けた政策が推進されている。同時に、校務支援システムなどにより、教職員の働き方改革につなげていくことも目的としている。

2. 「自分のことは自分で守る」学習を広げる

見出しに掲げた「自分のことは自分で守る」は、私が防災教育を行う際にいつも言う言葉です。(私の専門は防災教育です。) どんな年齢であっても、自分のことを守れるのは自分自身でしかないということを常に話しています。

◆防災教育について

防災教育とは、災害がどのように発生するのか、災害にどのように備えるべきか、また発災時にどのような行動を取ることが必要なかを学ぶことです。防災教育を通して、自分の命を自分で守れる存在を増やすことが大切です。

私はこれまで、東日本大震災や熊本地震、豪雨災害等の被災地の様子や被災者の声を講演という形で伝えたり、自身のボランティア活動の様子を伝えたりする活動を行ってきました。

また、避難リュックの中身を実際に確認して、災害時にどのようなものが必要なのかを確認する授業を行ったり、地域の過去の災害の情報を盛り込んだ洪水に関する授業を行ったりするなど、児童生徒がより自分事として関心をもって参加するような授業づくりに取り組んでいます。

◆防災士について

防災士とは、“自助”、“共助”、“協働”を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを日本防災士機構が認証した人です。2020年12月末現在で201,656名の防災士が認証されています。

防災士に期待される活動には、地域の防災活動(防災訓練等)でリーダーとして活躍することや、災害時の避難所

運営やボランティア活動の最前線で活躍するなどがあります。

今回、コロナ禍の状況下でそれは災害時だけでなく、平時からも同じことが言えるのだと思いました。どれだけ願っても、最終的に災害から身を守る、健康を保ち続けることが出来るのは自分自身の行動にかかっています。

つまり、平時からそのような学習を続けることで、「自分のことは自分で守る」ことを当たり前の考えとして持ち、そしてそれが周囲の大切な人を守ることに繋がったり、自分の大切な時間・思い出を守ることに繋がったりするということを子どもたちと一緒に考え、理解を深めていけたらと思います。

2021年が笑って終わることの出来る1年でありますように。そして、この記事を読んでくださった方にとって、幸の多い1年であることを願っております。

★霜崎大知：プロフィール★

2020年4月から、新潟県内の小学校に勤務。専門は防災教育。教科専門は算数。コロナ禍中、新社会人デビューを果たし、教鞭をとっている。

音楽関係では埼玉県在住時より合唱活動を開始、男声合唱団イル・カンパニーレ(川崎市)のバリトンとして歌う。



現在も、新潟から定期的にイルカンの活動に参加するほか、新潟県内の第九演奏会、オペラ、市民音楽劇などにも参加し活動の幅を広げている。

今後の目標は、「歌って踊って演じる教師」であり、常に様々なことに挑戦することを心がけている。

◆お詫びと訂正◆

『おんがく広場』第123号掲載の「〈音楽用〉紫外線ウイルス除菌装置」の記事において、装置は「下部から空気を吸い上げ紫外線を照射したのち上部のファンで除菌後の空気を戻すというものです」と記載していましたが、実際は逆で「上から空気を吸い、下から出す」でした。

これは、歌唱や楽器吹奏の高さを考慮し、吐き出された空気を拡散する前に速やかに吸い込んで除菌するもので、これがこの装置の特長ということです。

お詫びして訂正いたします。